

No.8

令和5年
秋・冬

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校



巻頭言

3年間の研修の締めくくりとなる第9回修了式、並びに新たな3年間の研修の出発点となる第10回入学式が執り行われました。

令和5年9月30日に本科9期生42名、修復専攻科8期生47名の修了式が職人大学校第一実習棟において執り行われました。式典では、修了証書授与に続いて坂本英之学校長の式辞、新保博之副市長ならびに中川俊一金沢市議会副議長の祝辞のあと、修了生を代表して、本科大工科の水田彰与史さんが答辞を述べました。

続いて、10月7日、本科10期生39名、修復専攻科9期生39名の入学式が執り行われました。式典では坂本英之学校長の式辞、村山卓市長ならびに中川俊一金沢市議会副議長の祝辞のあと、本科瓦科に入学する北作正臣さんから新入生代表の宣誓が力強く行われました。

また、長年の指導に尽力してこられた本科大工科講師の

宮本修一氏、中村清光氏、また修復専攻科講師の西村修二氏、安田正太郎氏、橋本浩司氏の5氏に市から感謝状が贈呈されました。

あわせて、「鰯（いかるが）工舎」設立者の宮大工棟梁、小川三夫氏から「木のいのち木のころ」の演題で記念講演を行っていただき、伝統的建造物に携わる職人の技と心を伝えていただきました。

開校以来27年の歳月を経て、関係各位のご尽力により、修了生総数は本科420名、修復専攻科320名となりました。今後はこの修了生が修得した技術を活かす場づくりを支援する仕組みが必須の課題であります。歴史的建造物の価値付けや適切な修復方法を提案したり、職人不足の自治体の支援など、様々な方策を講じていくことが急務です。

今期入学の研修生が修了する3年後、本校は開校30周年を迎えることになります。この3年間は様々な課題に取り組む大切な期間との認識を持ち、職員および関係の方々のお力添えをいただき前進してまいりたいと存じます。

● 本科：9 科より構成、修了すると「金沢匠の技能士」取得

本科は石工、瓦、左官、造園、大工、畳、建具、板金、表具の9科から構成。定員は大工科のみ10名、その他は5名で合計50名。各組合より推薦を受けた、10年程度以上の経験者で、働きながら3年間夜間や休日に学ぶ。修了すると「金沢匠の技能士」の称号が授与。第9期生が修了して、これまで合計420名が修了。

石工科

石工科では2回目の授業で「軟石加工の平削り」の授業を行っていました。今回入学の2人は小松市、能美市から来ており、金沢職人大学校入学の話があったときにはいい経験になるとの思いで希望しました。ただあまり職大のことは詳しく知らずに入学したので現在、探り探りの状況で来ていますとの事でした。研修生の一人は家業4代目で、もう一人は研修生の親同士が知り合いでその関係で石屋を志したそうです。



左官科

左官科では小舞掻き、荒壁練りの授業を行っていました。当日は吉村組合長（前列右）も指導にあたっていました。湿式工法で土壁の下地である骨組を竹で組んで麻縄で編んでいました。通常の仕事では工場で生産された材料を現場で取り付ける乾式工法が多く、伝統的な家屋でしかすることが無いため、思っていたより時間がかかっていたようです。3人が家業の後継者ですが別の方で実家がお寺の方は、面白そうだったから左官職人になったという方もいました。



大工科

大工科では扇垂木の原寸図の授業を行っていました。今年の大工科は24から49歳の計8名が入学。大工になった理由は、前職が現場監督で元々ものづくりが好きで5年前に転職、小さいときに大工を見てかっこいいと思って、家業が大工など様々。また入学の動機は、伝統的技術を学びたい、大工を極めたい、横のつながりを持ちたいなどそれぞれ明確な目標を持って入られたようです・・・が今回の授業から苦戦しているみたいです。



瓦 科



令和5年11月10日（金）に2回目の授業がありました。「原寸の型紙作成」で来年の4月頃まで座学を行う予定です。研修生の皆さんは業歴20年から30年の5人が今期入学、遠い能登町から来られている方もいます。入学動機には「瓦職人として極めたかった」そうです。なお、県内で瓦を焼いている唯一の瓦屋さんが今年やめられるそうです。元従業員が引き継ぐそうですが、今後は県外産の瓦を使う機会が増えるだろうとの事です。

造園科

造園科では今年6人の研修生が入学されました。全員が家業の後継者で全般的に若く、一番長い業歴の方でも22年だそうです。取材当日は初めての授業で職大校内の「黒松、赤松と梅の剪定」を行っていました。研修生の皆さんは、金沢の伝統的な造園技術を学ぶことを楽しみにしているそうです。



畳 科

畳科では岩手県、宮城県、滋賀県から36から46歳の3人の研修生が入学されました。全員が家業で畳職人をしており、本校の修了生から本校の存在を知り、入学したいと思っていたそうです。岩手からは車で9時間かかりましたが、今は新幹線で往復5万円程かけて月1回の授業に来ているようで、頭がさがります。因みに岩手県の名産は江刺リンゴ・盛岡冷麺、宮城県は牛タン・銘菓萩の月・笹かまぼこ、滋賀県は鮎鮓がおすすめですとのこと。いつか食べてみたいと思った筆者でした。



建具科

建具科では襖下地図面・加工の授業を行っていました。建具職人になった動機は祖父や叔父さん(当校9期生)が家業で建具職人をしており小さい頃から仕事を見ていたので憧れて、いつか恩返しが出来たらと言っている方、家業の3代目の方などいます。また入学の動機を聞くとまだまだ知らない事が多いと気付き学びたい、高い技能を習得したい、同業の方や他業種の方と関わりを持っていきたいと楽しそうに期待に胸をふくらませていました。



表具科

表具科でも新しい研修生が入学されました。業界では表具師が大きく減少しており、引き続き勉強される方がいますが、まだまだ知らない事が多いとのこと。当日は江戸時代末期の屏風の修復を行っていました。掛軸の修復はそこそこありますが、屏風の修復は滅多に無いそうです。新しい研修生にお話を伺いますと業歴は6年ほど。今から15年程前に好きな日本画家の作品の表装に感動し、表具の技を学びたいと業界入り。その後、本校の存在を知り入学してきたそうです。



板金科

板金科では3回目の授業で「菱葺き」の授業を行っていました。年齢は27歳から46歳と幅広く、業歴も最長24年ですが、写真を見た通り大変にぎやかで楽しい生徒の皆さんでした。まだ授業は始まったばかりですが、伝統的技術は通常の仕事の中ではほとんど行うことが無く、基本的な事が学べ、古い家屋の修繕等の手作業が必要な部分の仕事にも携わることが出来る事に目を輝かせていました。



こどもマイスタースクール

昨年、大雪で中止したミニ門松作りが令和5年12月23日(土)に行われました。この日も前日からの結構な降雪で駐車場は大渋滞でしたが無事行うことができました。ミニシクラメンや葉ボタン等のいろんなパーツを組み合わせて、それぞれ個性を発揮。同じようなパーツを使ったはずなのですが、それぞれ与える印象が違うミニ門松が完成。それぞれが大変満足しているようでした。手作りのミニ門松を飾って良い新年をお迎えください。



● 修復専攻科：修了すると「歴史的建造物修復士」取得

本校の本科修了生や金沢市の技術系職員、建築設計士等が伝統的建造物の調査、建造物の歴史的意義や価値付けと修復のための技法を学ぶ。定員は50名、働きながら3年間週1回(半日)学ぶ。修了すると「歴史的建造物修復士」の称号が授与される。第8期生修了(令和5年9月修了)により、修了生の合計が320名になった。

11月25日、修復専攻科8期生が取り組んだ修了研究課題の調査報告会を開催しました。報告会には今年10月に入学した修復専攻科9期生やOB、建造物の所有者、研究者・金沢市・保存修理の専門家の総勢120名余りが参加しました。

報告会は2部構成で、第1部では、建造物の実態を明らかにし、価値を見出して保存活用を考える4テーマ、第2部では、ものづくりを通して伝統技術を読み解く5テーマの報告を行いました。

研究者からの講評では、詳しく調査に取り組んだことで、新たな発見に結びついている。金沢市からは、研究成果の市民への還元と今後の保存修理事業への協力要請。専門家からは、研究成果を調査報告書として発行し活用を図る、といった評価と提言をいただきました。

また、9期生の感想からは、職種の違う人たちと研究グ

ループを組み、各々の知識や経験を共有しながら修了研究課題に取り組むことの意義を見出したことがわかりました。3年間の目標が定まり、それぞれの学びがはじまりました。



謡曲教室

「空から謡がふってくる」と言われるほど謡曲が盛んな土地柄。毎年6月から翌年3月まで毎月第1・3木曜日に金沢市民芸術村の和室をお借りして教室を開いています。今期は第24期生が熱心に通っています。取材の日は、石川県立能楽堂において住駒先生、渡辺先生による説明と、室町時代の小鼓（金沢駅の鼓門のデザインとなった楽器）を手にとる機会があり、皆さんびっくりしながら加賀宝生の歴史に触れました。現在、謡曲人口も大きく減少していますが、受講生の中には次年度も参加したいと言っている方もおり、頼もしい限りです。取材をしている筆者も観能のファンの一人です。来年度も4月頃に生徒の募集をします。授業料は無料です。奮って参加をお願いします。



お茶教室

職大では教養講座としてお茶教室を行っています。毎年6月から翌年3月まで毎月第1・3水曜日に金沢市民芸術村の「里山の家」をお借りして行っています。現在は第18期生13人が受講中です。お茶の作法を足の痺れに耐えながら学んでいます。3月には長町研修塾にあるお茶室をお借りしてお茶会・修了式を行う予定です。はじめはわからないことばかりで皆さん苦労されていたようですが、最近は自分専用の道具を購入したり（職大では道具をお持ちでない方に道具一式をお貸ししています）、何やかや言いながら奥能登から真面目に通っている方もいます。意外とやってみると楽しいのかも？来年度も4月頃に受講生を募集します。授業料は無料。毎回、ひがし茶屋街のお茶会専用のお菓子作りで有名な菓子店の季節のお菓子を準備してお待ちしています。



【編集後記】

本校は、この秋に第9回修了式、第10回入学式を終えて、新たなスタートを切ることができました。これも偏に皆さまのご支援の賜物であると感謝いたします。また、本誌は本8号から「職大だより」と名称を変更して発刊いたします。内容も漸次改善しつつ進めて行きたいと思います。市民の皆さまに親しみを持っていただきたく、どうぞよろしく願いいたします。（H.S.）

市民参加事業

金沢職人大学校では一般の方が参加できる行事を、春に『授業参観日と作品展示バザー』、秋には『市民公開講座』と『町家庭園探訪』の年間3つを開催しています。町家庭園探訪は令和5年11月18日（土）に開催予定でしたがが悪天候のため残念ながら中止となりました。お庭を見学させていただく予定のお家の方々、今回は応募者多数の中から当選され、楽しみにしていただいていた参加予定だった皆様、大変申し訳ございませんでした。

令和5年9月10日（日）当校にて本科9科により『市民公開講座』が開催され、28名の方が参加されました。植木鉢製作、棟積み体験、泥団子製作、雪吊り、花台製作、上敷製作、ミニ衝立製作、銅板茶卓製作、壁掛けパネルの各講座で講師の指導のもと製作に挑戦していました。

参加者のなかには本科全科制覇を目指しているツワモノの方もおり、今回まで6科、残り3科と来年度の参加に意欲を燃やしていました。



土塀の薦掛け（こもかけ）

土塀を雪から守る冬の風物詩『薦掛け』が12月2日（土）からの週末2日間、長町武家屋敷で行われました、本校研修生、修了生、石川県造園業協同組合の25名が高さ95センチ、幅3.6メートルの稲わらでつくられた薦を1枚ずつ丁寧に土塀にかけていきました。出発式には村山市長も参加され、割田組合金沢支部長の号令のあと作業を開始。薦は大野庄用水沿いの土塀など、延長約1.1キロを翌3日までに取り付け、来年3月中旬に取り外すまで見ることができます。



【発行・連絡問合わせ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

住所：石川県金沢市大和町1番1号

* 金沢市民芸術村の一角にあります。

電話：076-265-8311

ファックス：076-225-8314

Web サイト：<https://www.k-syokudai.jp/>

事務局：平日 9:00 - 17:00/ 土日・祝休み

